

公益社団法人日本地震工学会 第 60 回理事会議事録

A.日時： 2022 年 10 月 18 日（火） 16 時 00 分～20 時 00 分

B.場所： 建築会館および ZOOM によるオンライン会議

C.出席者：（会長）清野純史、（副会長）東 貞成、藤田 聡、松岡昌志

（担当理事）西村拓也、小林実央、古屋 治、山田岳峰、入江さやか、多幾山法子、鳥澤一晃、池田隆明、能島暢呂、市村 強、楠 浩一、近藤伸也、井上和真、小檜山雅之

（監事）五十田博、末富岩雄

オブザーバ出席：戸田薫子事務局長、小松康典事務局長、石井衣織事務局長

※下線は欠席者

D.議題および提出資料：

議題（見え消し線は中止になった議題）

報告事項

- | | |
|--|----------|
| 1) 第 59 回理事会議事録（案）確認（小林理事） | 資料 60-01 |
| 2) 会務報告（西村理事） | 資料 60-02 |
| 3) 会計報告（古屋理事） | 資料 60-03 |
| 4) 広報部会からの報告（入江理事） | 資料なし |
| 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事） | 資料 60-05 |
| 6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事） | 資料 60-06 |
| 7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事） | 資料 60-07 |
| 8) 論文集編集委員会からの報告（能島理事） | 資料 60-08 |
| 9) 事業企画委員会（企画）からの報告（近藤理事） | 資料 60-09 |
| 10) 2022 年度大会に関する報告（楠理事） | 資料 60-10 |
| 11) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事） | 資料 60-11 |
| 12) 将来構想委員会からの報告（東副会長） | 資料なし |
| 13) 関東大震災 100 周年共同記念事業に関する報告（東副会長） | 資料なし |
| 14) 選挙管理委員会からの報告（山田理事） | 資料 60-14 |
| 15) 第 11 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（清野会長） | 資料 60-15 |

議案

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 第 1 号 入退会者（小林理事） | 資料 60-16 |
| 第 2 号 委員会委員の委嘱（西村理事） | 資料 60-17 |
| 第 3 号 共催・後援・協賛等（小林理事） | 資料 60-18 |
| 第 4 号 スペシャルアドバイザー申請について（小林理事） | 資料 60-19 |
| 第 5 号 地盤反力委員会成果報告会 会告（松岡副会長） | 資料 60-20 |
| 第 6 号 研究室パックの創設について（西村理事） | 資料 60-21 |
| 第 7 号 インボイス制度について（事務局） | 資料 60-22 |

懇談事項

- | | |
|---------------------|----------|
| 1) 事務局の体制について（西村理事） | 資料 60-23 |
|---------------------|----------|

- | | |
|--|----------|
| 2) 2024年アジア地震工学会議の開催について（清野会長） | 資料なし |
| 3) 論文賞選考スケジュールについて（松岡副会長） | 資料 60-25 |
| 4) 令和3年度日本地震工学会表彰式・記念講演のシナリオについて（西村理事） | 資料 60-26 |
| 5) 賞の副賞創設案について（西村理事） | 資料 60-27 |
| 6) 新会員システムの総会機能のテスト（事務局） | 資料 60-28 |

E.議事録：

議題

報告事項

- 1) 第59回理事会議事録（案）確認（小林理事）
 - ・小林理事より資料 60-01 に基づいて第59回理事会議事録案の説明がなされ、異議なく承認された。
- 2) 会務報告（西村理事）
 - ・西村理事より資料 60-02 に基づいて会務報告の説明がなされた。メキシコ地震学会から60周年のビデオを送ってほしいとの依頼が中埜前会長にあり、清野会長が動画を作成して送付した件を追記することを前提に、異議なく承認された。
- 3) 会計報告（古屋理事）
 - ・古屋理事より資料 60-03 に基づいて会計報告の説明がなされ、異議なく承認された。
- 4) 広報部会からの報告（入江理事）
 - ・入江理事より、会誌の中央省庁（国土交通省、気象庁、文部科学省）の記者クラブへの配布を発行後行う予定であり、12月の2022年大会に向けて地元の北海道庁記者クラブ等へ大会の開催案内のプレスリリースを出したいと考えているとの報告がなされ、異議なく承認された。
- 5) 情報コミュニケーション委員会からの報告（多幾山理事）
 - ・多幾山理事より資料 60-05 に基づいて報告がなされ、異議なく承認された。
- 6) 会誌編集委員会からの報告（鳥澤理事）
 - ・鳥澤理事より、会誌編集委員会からの報告がなされた。会誌48号の寄稿打診先にある早稲田防災教育支援会と同じような活動を京都大の学生組織（京大防災教育の会 KiDS）でも行っているの、そちらも掲載してはどうか、との意見が挙がり、編集委員会幹事から KiDS へ打診することとなった。
 - ・SATREPS における国際協力の記事も特集に含める予定であるが、日本建築防災協会の月刊誌でも同様の特集が組まれる予定であり、そちらとプロジェクトが被らないよう振り分けをしている。それに関する経緯や背景を特集の序文に記載した方がよいのではとの意見が挙がった。
- 7) 国際委員会、地震災害対応委員会からの報告（池田理事）
 - ・池田理事より資料 60-07 に基づいて、地震災害対応委員会、国際委員会の活動について報告がなされた。
 - ・地震災害対応委員会については、台湾東部の地震の情報発信を web サイトの方で行っており、地震被害調査が10月17日～22日に実施され、帰国後土木学会と共催で報告会を開催予定との報告がなされた。
 - ・若手研究者に対する地震被害調査費用の支援制度については、審査方法の指標を作るべき、事後申請にも柔軟に対応すべき、若手会員を増やす目的から博士課程のみならず修士課程の学生の応募も可能とすべき、といった意見が挙がった。
 - ・国際委員会については、「インドネシア地震工学会」とは9月28日に調印を行ったとの報告がな

され、この事案を記事にしてホームページに掲載することとなった。今後、「台湾地震工学会／国家地震工程研究中心」、「タイ王国立工学会」との協定の締結に向けて準備を進行中との報告がなされた。

8) 論文集編集委員会からの報告（能島理事）

- ・能島理事より資料 60-08 に基づいて、論文集編集委員会の活動について報告がなされた。
- ・論文集のフリーアクセス・ジャーナル化については、来年 2 月末刊行予定の Vol.23, No.1 からエンバーゴを撤廃してフリーアクセス・ジャーナル化すること（本年 12 月告知）、併せて、2022 年発刊したものについても遡及適用して掲載論文全編フリーアクセスを可能とする方針が提案され、承認された。本提案に準じた著作権ポリシーの改訂についても承認された。同ポリシーではプレプリント・サーバーで公表した原稿の投稿は不可としているが、プレプリント・サーバーの利用については、今後オープンアクセス化まで進める時に改めて検討する予定であるとの報告がなされた。
- ・掲載論文の取り下げ申請が出された。計算をやり直した結果、提案手法と従来法とでまったく違いが見られなくなって有用性が示せなくなったというのが取り下げの理由になっている。
- ・しかしながら、提案手法がまったく有効でないのに有効であるといったような誤った主張をしているわけではなく、例えば理論解と粘性境界の差が大きくなるようなケースで検討していただいでそれでも提案手法に効果がないのであれば誤った主張にはなりうるものの、現時点ではまだ、論文集倫理規程 1.8 に定める”重大な誤り”に相当すると言えるものではなく修正で十分対応できるのではないかと、提案手法によっても同等の効果が認められたとして結果を残しておくこと自体に十分学術的価値があるのではないかと、といった意見が挙がった。
- ・そこで、今一度著者に、修正に留める形で対応できるのではないかとという理事会の意見を伝えるとともに、提案手法の有用性に関する再度の検討を依頼することとなった。

9) 事業企画委員会（企画）からの報告（近藤理事）

- ・近藤理事より資料 60-09 に基づいて、事業企画委員会（企画）の活動について報告がなされた。
- ・中高生や学生・若手向けの講習会については、PR、プレスリリース、取材といった広報活動を検討していくために今後、広報部会にその進め方について相談する。

10) 2022 年度大会に関する報告（楠理事）

- ・楠理事より資料 60-10 に基づいて、2022 年度大会の準備状況について報告がなされた。
- ・投稿数が伸び悩んでいるため、投稿増に向けて、各理事に協力要請がなされた。
- ・大会実行委員 3 名追加が提案され、承認された。
- ・清野会長のご承認の後、投稿〆切日を延長した。会員へのメールとホームページで周知済み。
- ・プログラム案、基調講演と招待講演の企画案、招待講演を zoom のウェビナーで会員に公開することについて説明がなされ、異議なく承認された。
- ・今年度は世界地震工学会副会長のイタリアの Michele Calvi 先生にオンラインで招待公演を依頼している（Calvi 先生内諾済み）。

11) 16JEES 運営委員会からの報告（小檜山理事）

- ・小檜山理事より、資料 60-11 に基づいて、16JEES についての準備状況について報告がなされた。
- ・9 月 1 日に 16JEES の日本語版と英語版のウェブサイトを公開し、他の主催学会にも周知し案内を行った。
- ・オーガナイズドセッションの提案への協力要請がなされた。

12) 将来構想委員会からの報告（東副会長）

- ・東副会長より、現在ワーキングで取りまとめ中の内容について、2022 年度大会においてポスター

発表をする方向で準備を進めているとの報告がなされた。

13) 関東大震災 100 周年共同記念事業に関する報告（東副会長）

- ・東副会長より、本事業は日本地震学会との共催について承認いただき進めており、現在日本地震学会の方で科研費（研究公開促進費）に関する申請がなされ、その採否は来年 4 月くらいに決定される状況であるとの説明がなされた。

14) 選挙管理委員会からの報告（山田理事）

- ・山田理事より、資料 60-14 に基づいて、2022 年の役員選挙が滞りなく実施されたとの報告がなされた。
- ・次期監事候補選挙の白票が 235/1134 票と比較的多いのは、監事 2 名分投票していただけなかったもしくは会長選挙のみ投票した方が居たことがその原因と推定されるとのこと。

15) 第 11 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告（清野会長）

- ・清野会長より、資料 60-15 に基づいて、第 11 回日本地震学会・日本地震工学会会長懇談会の報告がなされた。

上記の通り出席した業務執行理事より業務報告がなされた。

議案

第 1 号 入退会者（小林理事）

- ・小林理事より資料 60-16 に基づいて入退会者の報告がなされた。入会者および退会者に関して、異議なく承認された。

第 2 号 委員会委員の委嘱（西村理事）

- ・西村理事より資料 60-17 に基づいて日本地震工学会の大会実行委員会の委員、津波荷重評価の体系化の心得を取り纏める研究委員会の委員、スペシャルアドバイザーの追加の報告がなされ、異議なく承認された。
- ・IAEE の National Delegate (ND)が変更されたことについて、JAEE 名の正式なレターを IAEE に送付することについては、事務局で対応することとなった。

第 3 号 共催・後援・協賛等（小林理事）

- ・小林理事より資料 60-18 に示された 4 件について説明がなされ、異議なく承認された。

第 4 号 スペシャルアドバイザー申請について（小林理事）

- ・小林理事より資料 60-19 に基づいて、入江理事から推薦のあった大角恒雄氏をスペシャルアドバイザーとしての登録することについて報告がなされ、異議なく承認された。

第 5 号 地盤反力委員会成果報告会 会告（松岡副会長）

- ・松岡副会長より資料 60-20 に基づいて地盤反力委員会成果報告会の報告がなされた。研究委員会の中での研究活動の範疇を超えたような広い範囲についてワークショップを開催したいという意向があり、資料にあるような「南海トラフ地震の社会混乱を制御するための方策に関するワークショップ」というタイトルの会告となっている。
- ・ワークショップの名称については委員会の名称を活かしたものとすること及びワークショップの参加費は徴収する方向で再検討することを条件に、同ワークショップを開催することが承認された。

第 6 号 研究室パックの創設について（西村理事）

- ・西村理事より資料 60-21 に基づいて新しい学生会員の種別（研究室パック）の創設についての提案がなされ、異議なく承認された。

- ・この会員種別の開始は2023年度からとする。期限は1年のみとし会費は¥1,500とする。申し込みの人数下限は無い（1人でも可）。
- ・会員特典細則の第2条（正会員）について、第5号（論文集の閲覧・入手）や第7号（論文投稿者に求められる会員種別）の改訂が必要との指摘があり、別途相談・協議することとなった。

第7号 インボイス制度について（事務局）

- ・事務局より資料 60-22 に基づいて、来年度以降インボイス制度における課税事業者となり適格請求書発行事業者の登録手続きを行うことが提案され、異議なく承認された。
- ・今後数年間登録しながら様子を見て、必要があれば登録を解除して元に戻すことも可能であることも、事務局より説明された。

懇談事項

1) 事務局の体制について（西村理事）

- ・西村理事より資料 60-23 に基づいて、今後の事務局の体制についての報告がなされた。
- ・小松事務局員の勤務体系の変更に伴い、新規パートタイム事務局員として徳澤香代さんの採用を決定。11月から勤務予定。

2) 2024年アジア地震工学会議の開催について（清野会長）

- ・清野会長より2024年アジア地震工学会議の開催についての報告がなされた。
- ・現在のところネパールでの開催が有力であるが、開催にかかわる様々な環境やアクセスが不便などの理由で開催に難があるとなった場合に、日本での開催になる可能性がある。11月に決定の予定であり、本件次回理事会で改めて報告することとなった。

3) 論文賞選考スケジュールについて（松岡副会長）

- ・松岡副会長より資料 60-25 に基づいて論文賞選考スケジュールについての報告がなされ、異議なく承認された。
- ・受賞者への賞状の授与、受賞記念講演を今年度と同様、年度大会で実施するかどうかについては今後、大会実行委員会および総務理事等関係者で検討する。

4) 令和3年度日本地震工学会表彰式・記念講演のシナリオについて（西村理事）

- ・西村理事より資料 60-26 に基づいて令和3年度日本地震工学会表彰式・記念講演のシナリオについての提案がなされ、異議なく承認された。表彰式の司会者は、全員現地にて参加できることを確認した。

5) 賞の副賞創設案について（西村理事）

- ・西村理事より資料 60-27 に基づいて賞の副賞創設案についての報告がなされた。副賞としてメダルを進呈する案を検討中。
- ・メダルに対する専門業者の見積が高額なため、別案1として、個数を減らしてオーダーメイドで製作できないかの検討を進めようと考えている（依頼先：東京藝術大学）。
- ・昨日（10月17日）に、東京藝術大学から概算見積もりのメールがありメダル20個でデザイン料含め64万8000円（税抜き）との連絡があった。この個数ではメダルのストックが5年も持たない可能性があり、将来もう一度同じ物を依頼する場合、型から起こすことになるので同等の金額が必要で、かつ金属相場の影響を受ける可能性もあるとのこと。より数多くのメダルを製作すると一般の市場原理とは逆により高額になるという説明を受けている。
- ・現時点では上記のような製作個数の制約がある（適宜の注文対応は難しい）ことから、複数の著者が居る場合も1論文に提供できるメダルは1つと考えている。しかし、学会によっては、希望に応じて実費で提供しており、同様の対応を要望したいという意見が挙がった。

- ・上記意見への対応も含めて、継続して検討することとなった。
- 6) 新会員システムの総会機能のテスト（事務局）
- ・事務局より資料 60-28 に基づいて新会員システムの総会機能のテストへの協力依頼があった。
 - ・6 月の新会員システムの導入後においても、総会出欠登録システムが正しく運用されるかどうかの確認テストを実施するもの。
- 7 その他
- ・現在、地震観測記録を販売しているが、3 月にイランから同記録の購入希望があった際、アメリカの輸出規制によって送金ができないため不可能であるとお断りしていた。しかしその後も何度かイランの方から購入希望の連絡が事務局にあり、改めて検討したものの、経産省のキャッチオール規制の関係および送金の困難さから販売をお断りした。以上の経緯を踏まえ、HP の販売について記載したページに、“注意事項”という形で、「関係省庁の定めるルールに従って、販売可能かどうかの審査が行われます。」という一文が追加されたことが報告された。
 - ・次回の理事会（および正副会長会議）から、次期会長候補者の高田先生に理事会参加のご案内をすることが報告された。

次回予定：第 61 回理事会 12 月 13 日（火）15 時-18 時
（正副会長会議 11 月 18 日（金）16 時-19 時）

以上 この議事録が正確であることを証します。

令和 年 月 日

議長 清野 純史

監事 五十田 博

監事 末富 岩雄